令和８年度　第１回高知市児童福祉審議会　保育施設みらい構想検討部会　議事録

日時	場所	傍聴
令和８年８月 19 日（水） 16:30～17:30	高知市役所本庁舎６階 601 会議室	可（傍聴者２名）
出席者		
＜委 員＞ 山下部会長、船井副部会長、中屋委員、新谷委員、西口委員、三ツ石委員、森本委員、山﨑委員 ８名 ＜事務局＞ こども未来部 山中部長、植田副部長、 こども政策課 松村課長、保育幼稚園課 伊勢谷課長、 こども政策課 赤堀課長補佐　他		
欠席者		
（委　員）齊藤委員		

１　開会

２　議事　公立保育施設の在り方検討の進め方

資料１をもとにこども政策課から説明

【質疑・意見】

（船井委員）

前回は第１ブロック、特に春野においては利用児童の人数が少なくなり、なおかつ施設の老朽化等の課題が挙げられていた。南海トラフ地震も考えて、早めに施設を統廃合する、あるいは安全なところに統合すべきだという意見があり、私もそのとおりだと思う。

公立施設数は地区による偏りがある。潮江地区にはないと思うが、複数ある春野に関しては早く統合を進めていくべきである。

安全性を考えたら、初めに第１ブロックから取り組むべきだと考えている。浦戸湾の入り口に防波堤を作り、大きな津波が来ないようにすることは数年後に実現するが、南海トラフ地震が起きた時には、長浜や春野が壊滅状況になると思う。この点をどのように考えているのか。

（こども未来部長）

今回、検討の進め方を第１ブロックだけに限定するのではなく、市全体の公立施設を検討するという提案である。今後は、こどもの安全面、施設の老朽度合い、こどもの数の減少状況等を踏まえて、総合的な観点で検討する。市域全体の公立施設を検討していった結果とし

て、春野が最初に着手していくべき施設となることは考えられるが、現段階で必ずそこから着手するとお示しすることはできない。この事業は５年や 10 年で全て終わるものではないと考えている。先ほど意見のあった早めに着手すべきエリアの施設については、事業期間を区切って施設の方向性を示すことを考えている。

（山下部会長）

視点１・視点２という２つの視点から総合的に判断していくこと、視点２の中にも地域特性、災害リスクという評価の視点も入っているので、1 か所だけで行うのではなく市全体をみた上で、優先順位や財政面も考えて、何年かに分けて計画的に投資をしていくイメージでよかったか。

（三ツ石委員）

例えば、一宮に住んでいる方が中心部で勤務し、中心部の保育園にこどもを預けるといった利用が考えられるが、そのようなデータはあるか。

（こども政策課）

最初に説明した大街カルテの分析の中で、各大街に設置された施設ごとに分析をしており、利用しているこどもの居住地まで分析している。施設が在る大街の人口の減少だけでなく、利用児童の居住地の人口減少も考慮している。施設の利用状況が現在の居住地割合で変わらない前提ではあるが、人口減少とともにその施設がどうなるかを踏まえた推計データを作成している。

（山下部会長）

視点１・視点２の他に、追加すべき評価項目や視点について意見はないか。

例えば、資料５ページの視点１・視点２がベースになって、これから市民の皆様に意見を聞くのか。

（こども政策課）

そのとおりである。

（西口委員）

前回の保育施設みらい構想検討部会では、施設の築年数や定員などの資料もあり、分かりやすかった。船井委員の意見と同意見である。先日発生した熊本地震のことも考えて、こどもの命を最優先に考えるべきではないか、早急に考えてほしい。

前回の資料があればより詳しい話ができると思う。

（三ツ石委員）

資料５ページの視点２の機能分担の「家庭支援拠点」とあるが、これは具体的にどういったものか。

（こども政策課）

「家庭支援拠点」というのは、在籍するこどものうち配慮が必要なこどもの割合が多い施設などを想定している。

例えば、エリアによっては家庭支援が必要なこどもの割合が多い施設もあり、そういった施設が市内全域でどのくらい必要なのかを議論をしながら、維持すべき施設を判断するイメージで考えている。

（山下部会長）

熊本地震では、安全なものに建て替えたところが再び同じように被害にあっている。そうした時にこども達を預けて保護者が安心して復興にあたるためにも、拠点となる安全な施設

というのは必要だと思う。屋根が落下しないか、物が落ちないかなど施設の危険度などをしっかり見て判断するというのは、耐用年数に加えて一つの指標として考える必要があると思う。

この評価基準については、市民の皆様の意見を踏まえた上で多少変更があるということか。

（こども未来部長）

ご意見を踏まえて評価基準を確定させたいと考えている。特にご意見等がなければ、この形で進めていく予定。

（三ツ石委員）

資料６ページ目の市民の声の当事者というのは、現在（教育、保育施設を）利用されている保護者に加えて、将来の利用者である妊婦の方や子育て支援センターの利用者なども入るのか。

（こども政策課）

含まれる。

（三ツ石委員）

公立保育施設に何を求め、何を重視するのかとは具体的にどういうことか。調査対象に大学生等があるが、公立と民営を区別して考えている大学生は少ないと思う。

（こども未来部長）

今回は公立保育施設のあり方を検討するため、特に現在利用されている方については、何を公立施設に求めているか、公立保育園として何を大切にしていきたい、何を守っていきたいと考えているのかという、市民として、利用者として公立保育施設への価値観を聞きたいと思っている。

大学生に関しては、保育者を志す方を中心に考えている。設問の仕方等を考えて、学生が答えやすいよう、実際の利用者と学生等への設問を分ける工夫が必要と考えている。

（山下部会長）

保護者の視点から見ても公立や私立を意識せず、同じ保育所として見ていると思う。公立として問うのであればアンケートの取り方は工夫が必要だと思う。

（三ツ石委員）

保育施設の統廃合と連動すると思うが、第１ブロックなどで小学校以降の施設の統廃合がどうなっているのか。参考資料として情報が少しでもあればまた違った審議ができると思う。

（こども未来部長）

全庁的に様々な公共施設の在り方の検討が、今後進められると思う。学校の検討状況等についてもお示しできるタイミング・内容で共有させていただく。

（山下部会長）

先ほど出ていたように複合施設にする、あるいは学校の空き教室を使って改装するなど市としての方針が今後検討されてくると思う。その場合には、この会議の方にも情報提供があれば、より具体的な話ができると思うので、よろしくお願いする。

３　閉会